

故古市男の銅像除幕式

昭和9年1月故人となられた東大名誉教授、本會初代会長、男爵古市公威博士の遺徳の表彰する銅像建設は同博士記念事業委員会の手で進められこの程同大学工学部本館脇の廣場に見事に竣工したので5日午後2時、盛大な銅像除幕式を挙行した。

式場には故博士の長男古市六三氏が千穂子夫人と6人の子女を伴ひ大阪から列席し、來賓には平沼誠一郎男、林潤助男、水野練太郎氏、嘉納清五郎氏、鈴木孝

雄大將等の諸名士を始め工学界、大学関係者等300餘名参列した。定刻令孫の若子嬢の手によつて緋色の幕が引下されると杖を右手に軽く支へ、ソファに腰を下した故博士の坐像が恰も生けるが如くサツと現れる。この坐像は高さ27尺、21尺の衝立を背にした堂々たるもので彫刻家堀進二氏の作である。

かくて平沼男、長與東大總長の祝辭があり、遺族を代表して古市六三氏が謝辭を述べ茶菓の宴に移つて午後3時半散會した。(編輯部)

図11. 除幕式の光景

